

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270101619		
法人名	有限会社 ハーモニー		
事業所名	グループホーム ハーモニーそが		
所在地	千葉県千葉市中央区蘇我4-22-11		
自己評価作成日	平成25年3月8日	評価結果市町村受理日	平成25年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaignokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307
訪問調査日	平成25年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・一人ひとりの個性や性格、有する能力を理解をするために職員が先入観なく自分の見方や感じ方で入居者さんを見て、その情報を共有することで自分の気付かなかったことや見つけられなかった事を埋めていき点ではなく線で入居者さんを理解できるようにしている</p> <p>・「ありがとう」を言葉にだして伝えることにより「役に立っている」「必要とされている」と感じていただけるようにしている</p> <p>・「人として生きる」ことを大事に支援してしています</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1. JR蘇我駅から車で5分の閑静な新興住宅街に立地した平屋建てホームです。入居一時金等の諸経費が相場より安く、食事は手作りの家庭料理で美味しく、全体的に割安感があります。</p> <p>2. 医療面、健康面に力を入れており、月2回の内科医訪問診療、歯科医の随時訪問体制ができていて、認知症に詳しい医師の紹介・付き添い、食後の口腔ケアの徹底、毎日のバイタルチェック、音楽体操、週3回の入浴等により、健康管理に万全を期しています。</p> <p>3. サービス面では、家庭的な雰囲気の中、利用者に応じて細やかなサービスを行っており、今回実施した家族アンケートでも絶賛されています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングなどで職員同士で確認しあい実行できているかを振り返りながら業務を行っている	理念に「住み慣れた地域で、家庭的な雰囲気の中入居者の有する能力を活用し、人として生きることを支援する。」を掲げ、職員は会議で確認し、日頃のサービスの中で自然に実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などで近隣住民の方々と挨拶をかわしたり、公園では小さな子供達と遊んだりしている	町内会に加入し、夏祭りの参加等地域に溶け込むように努めています。只新興住宅地の為町内会活動は活発ではありませんが、隣人とは親しくなり、散歩時に近隣の人たちと挨拶を交わしたり、公園で親子連れと交歓したりしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者さんが散歩などで見せる姿や交わす挨拶によって理解は深まっていると思っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の理解によりご家族からの意見がでるようになってきた また、新興住宅ゆえ地域住民の方などの参加はとて難しく実現ができていない。	昨年12月から年6回開催を目標に、家族、利用者、職員で会議を開催しています。地域包括支援センター、町内関係者は、これまで都合がつかず欠席のままです。議題は、ホームの現況報告に加え、防災や終末期について意見を交わしています。	地域包括支援センターなど関係者の都合に合わせて日程を設定し、定期的に年6回以上開催すること、その時々課題を議題にとりあげて意見交換し、サービスの向上に活かすことが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題やちょっとした疑問などがあるたびにその都度市の担当者に連絡をしている	市担当には、常に細かく報告・相談しており、連絡・協力関係ができています。今後運営推進会議時に、必ず地域包括支援センターに出席してもらえるように、日程等について検討しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修などをとおして身体拘束の弊害を理解し、身体拘束がない支援をしている 玄関の鍵は夜間以外いつも開放してある。	契約書に身体拘束排除を記載し、止む得ない場合は家族の同意を得る書類を準備しています。職員は、毎年社外研修を受講しており、日頃身体拘束について話し合っています。玄関は日中施錠していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員にどんなことが虐待になるのか理解させ言葉遣い、態度などおかしいところは、その都度注意し直させるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用をすすめたほうが良い方がいらした 場合、ミーティングなどで勉強会を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、入居者がきちんと理解できるまで 何度でも説明するようにしている 契約時 は時間をかけてじっくり説明をするように している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員なら びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	何でも気軽に話していただけるような関係 を作れるようにしている 外部の相談先も 契約の際に説明している	利用者からは日頃のサービス提供時に、家族からは 訪問時、運営推進会議時や、電話等で意見・要望 を聞き、運営に反映するようにしています。協力的な 家族が多く、声をかけてくれればお手伝いしますと いう申し出も数件あります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで必ず一人一人意見 を聞く機会を設けている 困ったこと、 気づいたことなどはその都度言ってもらえ るような関係作りをしている	管理者は、職員から日頃の就業時や職員会議時 に、意見要望を聞き、運営に反映しています。実際 職員も、自由に意見・提案を言え、相談にものつて くれると話しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	個人の能力や頑張りによって任せる仕事 を増やしたり、研修に参加させたりしてマ ンネリを防ぎ、やる気を下げない努力をし ている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	研修の参加や月1回の勉強会を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	研修などへの参加時、同業者との意見・ 情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	場の雰囲気馴染んでいただけるように本人、家族と一緒に見学にきていただいたり、希望があれば体験入居も行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には必ず見学にきていただき、不安に思っていることは全てお話いただくようにしている そのため面談や見学の際は時間をかけるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの支援が適切かをよく見極め必要であれば他のサービスが取り入れられるよう柔軟に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には「認知症をもった人」ではなく「人」として接することを徹底し、一緒に暮らしているような気持ちで業務にあたるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の問題は必ず家族と連携をとり一緒に解決するようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	財産などの問題が関わってくるので家族(キーパーソン)の許可が必要だが、親戚や友人の方たちにはいつでも遊びにきていただけるようにしている	ホームとして、家族がいつでも自由に来訪出来るようにしている事が家族アンケートから窥えます。時には親戚やお孫さんが来訪し、利用者とは懇談しています。又家族が利用者の希望に添い、彼岸や命日などにお墓参りに連れ出す事もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「できないことを手伝う」当たり前のことが自然にできるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のお見舞いに行ったり、1周忌などにはお花を送ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で伝えることが難しい方が多くなり、意向を把握するのが難しくなっているが、ちょっとした表情や行動を見逃さずにして情報を集めるようにしている	利用者の口癖の内容により、気分がいい時とそうでない時を把握するなど、利用者に応じた思いの把握に努めています。又職員は、普段から家族や職員からの情報収集により、ミーティング時に意見を出し合い、利用者の意向を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談は可能な限り自宅で行うようにし、本人の生活の場や環境を実際に見るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	有する能力を理解するためにできたことできなかったことを職員同士で情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向や本人の意向を理解したうえで職員に報告しミーティングなどで話し合い計画を作成している。	介護計画作成者を中心に本人や家族の要望を尊重し、医師や看護師の意見を反映して、職員と共に計画を作成しています。モニタリングと計画の見直しは半年に1回行っていますが、利用者の変化時には随時見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実際に入居者さんが話した言葉で記録をとり、表情、態度など細かく記載するようにしている また、職員の対応も記録することによって職員同士の気づきにもなっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	私達が関わっても本人と家族の絆が失われない程度のサービスはニーズがあれば柔軟に対応していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人有する能力に合わせてその人らしく生活ができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に合わせて病院や訪問診療など選択してもらっている	内科医が月に2回、看護師と共に診療に訪れています。歯科医は、入れ歯が壊れたり欠けたり等、必要に応じて来訪しています。認知症に詳しい医師を紹介し、必要な利用者には職員が家族に同行することもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の看護師と協力体制がとれており、ちょっとしたことでも相談できるような関係性ができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態をこまめに見に行き看護師などに必ず様子を聞くようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の希望になるべく添えるように相談や話し合い、情報提供をしている	常時医療行為が必要となった場合は、病院のソーシャルワーカーと相談して、療養型の病院を紹介して貰っています。有料老人ホームや特養に移るケースもあります。ホームでは出来る限りのところまではお世話をし、誠実に対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問診療の先生との24時間オンコール体制がとれている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署指導のもと避難訓練を行っている	自主防災訓練を年2回実施しています。スプリンクラーは、建物面積の関係で設置義務はありませんが、今年度設置を検討しています。熱探知器、消火器、自動通報装置があり、緊急連絡先等も掲示されています。備蓄は、現状十分とは言えない状況です。	首都圏直下型地震や高齢で介護度の高い利用者が多い事を考え、消防署立会い、夜間想定、防災を含め年3回以上の訓練を行うこと、備蓄は、内容・数量共に見直し、5日分程度にすることが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「認知症の人」としてではなく「人」として接することを忘れないように徹底している	たとえ認知症で分からなくても、分かることを前提に声かけをし、人格の尊重に気遣いをしています。また排泄時の誘導には、他の利用者に気づかれないように支援すると共に、着替えやオムツ交換時等にはドアを閉め、羞恥心に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを表現できない方が多いので、表情や行動から気持ちを読み取ったり、選択肢を出し選んでもらうように工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを細かく決めずに、一日一日を入居者のペースに合わせた過ごし方をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容や毎日の整髪など身だしなみには気をつけている 時々、メイクをしたりしておしゃれを楽しんでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方が少なくなってきてしまっているが、できることはお手伝いをさせていただきながら作る楽しみも感じていただいている	食材は、随時職員が利用者と買出しに行っています。利用者は皮むき、材料切り、盛り付け等出来る事を手伝っています。必要に応じて刻み、ミキサー食、経腸栄養剤を使う等栄養摂取を心がけています。2ヶ月に1回、気分転換を兼ねて外食に出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼能力によりお粥にしたり、刻み食にしたりしている 水分量が少ない時は好きな飲み物を用意して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医院で働いていた職員がいるため口腔ケアについて、その職員が中心になって職員に指導している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を目標としている 時間は決めずにその都度対応している	オムツ利用者に、パッドを色々試した結果、漏れがなくなって不快感も無くなったり、トイレに行くのを恥ずかしがり失禁が増えた利用者に、声かけ誘導を行いトイレで排泄出来る様になった事例もあります。夜間もトイレに行く様になる等、地道な支援に成果が現れています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を多くしたり、体を動かしたり便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在の入居者の状態では一人一人のタイミングでの入浴は難しい状況にありますが、努力していきたい	原則、週3回の入浴を心がけ、バイタルに問題があった場合は、清拭にしたり翌日に延ばしています。重度の利用者には、足浴とシャワー浴を組み合わせ清潔の維持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースで気持ちよく夜間休めるように日中の過ごし方を考えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当入居者の薬をセットすることにより「何を飲んでいるのか」「どんな薬なのか」理解してもらいわからないことは薬剤師に聞いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることが少なくなってきたが得意なこと好きなことを探り出し、役割を持って毎日の日課として行ってもらおうようにしている 外出の機会ももつようにしているが行けない方が多くなってきた		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回家族も含めた外出企画を計画している	利用者は、普段20分から30分散歩に出かけています。車椅子利用者は、テラスで日光浴したり、お茶を飲んだりしています。衣類は家族の許可を得て利用者と職員で選んでいます。職員と一緒に食材を買いに行ったり、葛西臨海公園や茂原に芋堀りに出かける等遠出して、気分転換を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はこちらで管理を行っているが、買い物などの際には出来る人にはおさいふを渡し支払いをしてもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話や手紙などは自由にできるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には天窓も設置しており、昼間は日の光で過ごせる。明るく快適に過ごしていただいている	リビング兼食堂は、明るく、日当たりも良く、清潔でゆったりしており、利用者が寛げるように配慮されています。職員は温度・湿度を調整し、音や臭いに注意しています。利用者は日頃、居室にこもらずにリビングに集まり、自分のペースで過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はみなさんほとんどリビングで過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご本人と家族で好きなようにレイアウトしていただいている 危険物以外は何でも持ち込んでいただいている	居室は、クローゼットとエアコンが備え付けで、その他は利用者が馴染みの物を持ち込み居心地良く過ごしています。ベッドは、ホームで随時介護用を安く回転しています。転倒防止のため、各種用品をクローゼットに整理・収納して、室内はシンプルになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の有する能力に合わせてその人らしく「人として自分の力で生きる」ことを支援しています		